

訂正表

2020年03月31日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容	掲載日
P. 28	No.12 の解説文	<p>誤 [No. 1 2] 〈パーソナリティ障害③〉 正解 4</p> <p>A × 本肢は、解離性同一性障害に関する記述であり、一般的には多重人格とよばれるものである。気分の波が激しい(裏表のある性格)という意味ではなく、まったく異なる複数の人格が交代でその人物の行動や感情を支配するものである。一方、演技性パーソナリティ障害とは、芝居がかった態度や誇張した感情表現によって他者の注意・関心を引こうとするものであり、被暗示的で周囲の影響を受けやすいというヒステリー性格傾向ももっている。</p> <p>B ○ 自己愛性パーソナリティ障害とは、自分には特別な才能があり非現実的な成功を夢見る、自分が特別な存在であり周囲から過剰な賞賛を求める、対人関係では自分の利益を達成するために他人を不当に利用する、他人の気持ちに対する共感性が欠如しており尊大で傲慢な態度を示す、などの特徴を持っている。</p> <p>C ○ DSM-5では、パーソナリティ障害は、記述的類似性に基づいて3群に分けられている。そのうちC群は不安や恐怖を主とするものであり、強迫性、依存性、回避性のパーソナリティ障害が含まれる。一方、A群は奇妙で風変わりなパーソナリティ障害を意味し、妄想性、ジゾイドパーソナリティ障害、統合失調型パーソナリティ障害が含まれる。B群は情緒不安定で演技的なものであり、境界性、自己愛性、反社会性、演技性のパーソナリティ障害が含まれる。なお、回避性パーソナリティ障害とは、他者から批判されたり、人前で恥をかくことをおそれて対人接触場面を避け、抑制的に振舞うものであり、自尊心が低く劣等感も強いので、自分が相手から完全に好かれているという確信がもてないと人間関係を形成できないという特徴ももっている。</p> <p>D × 本肢は、自閉症スペクトラムに関する記述である。これは周囲に関心を示さず独特の言葉遣いをするなど、対人関係における質的障害が中心であり、自分の興味や関心のあるものには過度に執着したり同じ手順にこだわるなどの特徴を持つ。一方、強迫性パーソナリティ障害とは、物事の順序などに必要以上にとらわれて目標を見失ってしまったり、道徳や倫理観に忠実でありすぎて融通がきかないといった特徴を持つ。</p> <p>以上の説明より、BとCが妥当な記述であるので、肢4が正解である。</p>	2020/03/31

	正	<p>[No. 12] 〈パーソナリティ障害③〉 正解 2</p> <p>A ○ 本肢に記述のとおりである。シュナイダーは、人格の平均基準からの逸脱を異常人格と規定し、そのなかで「その人格の異常性のためにみずから悩むか、または社会が悩む」場合を精神病質と呼んだ。</p> <p>B × 「パーソナリティ障害は、DSM-Iから臨床的症候（Ⅰ軸）とは別の独立した軸（Ⅱ軸）として分類診断されていた」との記述が誤りである。DSMは第1版が1952年に、第2版が1968年に、第3版が1980年に、その改訂版が1987年に、第4版が1994年に、現在では最新版（DSM-5）が2014年に刊行されている。このなかで診断基準の大幅な変更がおこなわれたのが第3版（DSM-Ⅲ, 1980）である。第3版に至って初めて、人格障害（personality disorder）が「疾患」から分離独立した形で、すなわち、「疾患」は第Ⅰ軸で、人格障害や人格傾向は第Ⅱ軸で、と別々に評価されるという形式上の大改訂があった。また、わが国では第2版までの personality disorder の邦訳である人格「異常」を人格「障害」に改訳した。</p> <p>C ○ DSM-5では、パーソナリティ障害は、記述的類似性に基づいて3群に分けられている。A群は奇妙で風変わりなパーソナリティ障害を意味し、妄想性、ジゾイドパーソナリティ障害、統合失調型パーソナリティ障害が含まれる。B群は情緒不安定で演技的なものであり、境界性、自己愛性、反社会性、演技性のパーソナリティ障害が含まれる。また、C群は不安や恐怖を主とするものであり、強迫性、依存性、回避性のパーソナリティ障害が含まれる。</p> <p>D × 「DSM-5では、16歳以上であること、12歳以前に発症した行為障害の証拠があること」の記述が誤りである。DSM-5では、「18歳以上であること、15歳以前に発症した素行症の証拠があること」としている。なお、行為障害は、DSM-5からは素行障害の訳となり素行症の訳語も併記され、反復して持続的な、反社会的、攻撃的、また反抗的な行動パターンを特徴とし、年齢相応の社会規範や規則を大きく逸脱している状態をいう。これらの行動パターンはよく反社会的行動と呼ばれる。</p> <p>以上の説明より、AとCが妥当な記述であるので、肢2が正解となる。</p>	
--	---	---	--

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』（<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>）に掲載された日付です。